

## 平成山鉾

平成山鉾は、平成元年の『福岡よかとぴあ』に10mの山鉾を造って出演したことをきっかけに「10mの高さの山鉾を復活させよう」との機運が高まり、平成2年完成しました。

以降、日田祇園の象徴として、市内外のイベントに参加しており、特に平成6年の「京都平安建都1200年祭」や平成16年の「ハワイホノルルフェスティバル」への参加は、記憶に新しいところです。



## 日田祇園囃子

日田の祇園囃子が現在の形になったのは、文化14年(1817年)、日田代官

に就任した塩谷大四郎に随行してきた「小山徳太郎」が、代官のお供で長崎に出向き、長崎明楽の明笛を習得し、日田に持ち帰ったことが始まりと伝えられています。

現在は保存会が結成されており、古くから伝わる伝統の音色を継承しています。

まつり当日は、“芯”と呼ばれる責任者を中心に笛4・5人と太鼓、三味線各1人が囃子方として各山鉾に乗り、独特の音色で山鉾巡行に華を添えます。



## 日田祇園の歴史・概要

日田における祇園信仰は、およそ500年前に悪疫鎮護の願いを込めて始められ、正徳4年(1714年)には、現在のような山鉾が奉納されていました。

祭神は素盞鳴尊(すさのおのみこと)。豆田八坂神社・隈八坂神社・竹田若宮神社の三社の祭礼行事で、平成8年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

これらの山鉾は、全て町内の皆さんの手作りによるものです。毎年、歌舞伎の一場面を題材とした飾りつけが行われ、日田唯一の人形師「長嶋静雄さん」の手により、各山鉾に乗せられた人形に命が吹き込まれます。

## 祭礼への流れ

7月初旬

- 小屋入り行事  
作業始めとして祭に参加する全員で御神酒上げを行います。
- 色あげ作業  
解体された山鉾の館等の色を塗り直し、金紙を使った欄干の金具等を貼り替えます。

2週間前

- パイパイ染め  
山鉾の高欄の両側に挿すパイパイを、塗料で染め乾かします。
- 車揚げ  
木製の山鉾の車輪は、普段池の水の中に沈められており、山鉾の組立前に池から引き上げます。

1週間前

- 山鉾組立(飾り付け)  
色揚げされた館や、車輪等が組み立てられ、パイパイや手作りの松ノ木、牡丹、等を飾ります。
- 御輿洗い神事
- 人形乗せ  
各町内に振り分けられた華題の人形を、人形師の指図の元に山鉾に乗せます。
- 山番  
各山鉾の納所で夜警が始まります。

2日前

- 流れ曳き  
山鉾のバランスや車の調子を見るための試運転を行います。
- 集団顔見世  
流れ曳きの日、豆田4基と隈・竹田4基に平成山鉾を加えた計9基の山鉾がJR日田駅前へ集結します。

当日

- 祇園祭典(土日2日間)  
豆田地区、隈・竹田地区の各地区ごとに山鉾が巡行されます。

翌日

- 山鉾崩し  
各町ごとに山鉾の解体や、祇園山鉾会館への収納等の作業を行います。
- 仕舞い勘定  
掛け振り帳で購入した物の支払いや、山鉾に上がった清酒等が清算されます。
- 藪入り  
打ち上げを兼ねて慰労が行われ、一切の祭の行事が終わったとされます。